あなたのビジネスをインターネット上でサポート

DGnet URL ● http://www.isico.or.jp



Vol 23 2005 SPRING

●企業トップの素顔に迫る

トップの選択 (株)アイ・オー・データ機器 代表取締役社長 細野 昭雄 (株)アクティー 代表取締役社長 喜多 甚一

●サイエンスパーク発の最新情報

ISP REPORT フジタ技研(株)/宮本デザインワークショップ

●産学官連携の最前線

トライアングル 比陸マイクロナノブロセス研究会

●創造的企業ルポ

21世紀のチャレンジ (有)クリシェ/(有)ビートオール/ (株)JAISTATION/酒のこんちきたい

●ビジネス・フロンティアに進路を取れ!

BUSINESS FRONTIER

ジョブカフェ石川レポート イシコ・トピックス FINANCE インフォメーション・テーブル |巻頭特集|知恵と情熱で活路を開く

石川の風土を生かして、 農業に新しい風を

化学肥料や農薬を使わないたけもと農場の 米。約20年前から消費者への直販に力を入れ ている。詳しくは、巻頭特集をご覧ください。

風十を生かして、

従事者の高齢化や価格の低迷、あふれる外国産品 -日本の農業は今、岐路に立たされている。 これまでのような取り組みをしているだけでは、今後の展望は開けない。 他の産地とは違う付加価値の高い商品づくりや新たな流通ルートの確立、 加工や販売までを手がける総合産業化など、活路を開いていく必要がある。 新しい農業の在り方を模索し、こだわりと情熱を持って取り組む県内生産者の動きを紹介する。

「食卓 | と「産地 | の距離を縮める

食品ラベルの表示の偽装や未登録農薬の使用など、食の安全性に対する信頼感が 揺らいでいる。一方で、インターネットや物流システムの発達で流通の在り方も 変化しつつある。このような「食」をめぐる状況の変化をチャンスととらえ、もの づくりや販売戦略に知恵を絞る生産者をレポートする。



「消費者や企業の皆さんと、顔の見える関係を大切にしていきたい」と話す竹本代表。

こだわりの米を 消費者や企業に直販

(有)たけもと農場

能美市牛島町口175 TEL 0761-57-1919

たけもと農場が手がけるのは、化学 肥料や農薬を使わない、安全でおいし い米づくりだ。収穫した米の多くは、 JAを経由せず、消費者や食品加工会社 などに直接販売している。

米の流通の自由化が始まったのは 昭和63年、有機減農薬などの条件を満 たした米だけを直販できる特別栽培 米制度がスタートしてからのこと。平 成7年施行の新食糧法では、登録すれ ば誰でも販売が可能になった。

自前で流通させるにはリスクをと もなうが、自由化の波は意欲的な農家 にとって事業拡大のチャンスになっ た。竹本敏晴代表も「こだわったもの づくりをしたい。多少値が張ってもお いしい米を食べたい消費者はいるは ず」と産地直送に舵を切った。

買い手を見つけるのに苦労しなが らも、米の評判は口コミでじわじわと



店をきりもりしている山口さんの妻・泉さん。店内には「輪島産」にこだわった商品ばかり約80アイテムが並ぶ。もちろん鮮魚も扱っている。

広がった。今では全生産量のうち約2/3を食品加工会社などとの契約栽培、約1/3を一般消費者へ直販している。約20年の間に作付け面積を約2倍に増やした。

直販が順調に進んだ理由は、何と言っても米づくりにかけるこだわりだ。 竹本さんは「農業の原点である土づくりを大切にしたい」と話し、近年では、近くのシイタケ農家からわけてもらった使用済みの菌床や牧場から出る馬ふんを堆肥として活用している。さらに、深く土を耕すことで、水や空気の通りを良くし、稲が広く深く根を張れるよう土壌環境を整えている。



たけもと農場の刈り入れ風景。収穫後は、じっくり時間をかけて乾燥させる。

このような米づくりが注目され、3 年前からは笹寿しや各種弁当などを製造販売する(株)芝寿し(金沢市)と栽培契約を結んだ。「生産者の顔の見える米を使って、おいしさと同時に安心や安全も提供したい」という同社の方針と竹本さんの米づくりにかける姿勢が重なった結果だった。今後は、芝寿しから出た食品の残渣を堆肥としてリサイクルする取り組みにも挑戦するなど、食品企業のパートナーとしても存在感を増している。

網元が加工、 販売までを手がける

輪島網元 やまぐち

輪島市河井町4部66-1 TEL 0768-23-1178 http://www.yamaguchi-suisan.com

輪島沖に定置網を敷く網元の3代目、 山口尚人さんは平成15年11月から、漁 で捕れた魚の加工、販売に取り組んで いる。朝市通りから徒歩約5分、輪島市 が整備した工房長屋に構えた店舗に は、定置網で揚がる魚の干物や糠づけ、 粕づけ、いしるなどが並び、着実にリ ピーターを増やしている。

山口さんが漁場としている外浦の定置網漁の漁期は3~11月である。冬場に漁の最盛期を迎える七尾湾や富山湾と違い、12~翌2月にかけては、しけのため漁に出ることができない。

その上、養殖技術の進歩や輸入品の 増加によって魚の値段は下落し、今で は25年前の半値だという。山口さんは このような状況に危機感を募らせ、自 ら加工した商品を通年で販売できる店 舗をオープンすることにした。

「定置網漁のいいところは、魚の鮮度がいいこと。せっかくやるんだから、輪島産と鮮度にはこだわる」と山口さん。手間ひまかけてつくるので、価格は輸入物を使った商品の約2倍にもかかわらず順調に客足を伸ばしている。観光客よりも地元客の利用が多いのも、味のよさの証に違いない。今後もこだわりはそのままに、アイテム数を増やして、店舗の魅力アップを図る考えだ。

第2の「関サバ」を目指して

大分・佐賀関港で水揚げされたサバは「関サバ」と呼ばれ、高級魚として知られる。 約15年前までは他産地のサバと同じ価格で取引されていたが、全国キャンペーン などで味のよさをPRしてメジャーになった。第2の「関サバ」を目指し、ブランドイ メージの確立により、他との差別化を試みる産地を紹介する。

深層水トマトで品質と イメージをアップ

JA内浦町

能登町松波10字54の甲1 TEL 0768-72-1238

JA内浦町は、海洋深層水を使ったトマトを特産化し、ブランド商品として全国に発信しようと昨年9月から試験栽培に取り組んでいる。12月には初めての試食会を開き、関係者約30人が深層水トマトの味を確かめた。参加者からは「普通のトマトよりも甘くておいしい」と評判は上々。その後、Aコープを通して試験的に一般消費者へ販売したところ、「トマト嫌いの子どもでも喜んで食べている」などの声が寄せられ、自信を深めている。

JA内浦町が深層水トマトに取り組む背景には、「量」ではなく「質」を追求することで産地として生き残りをかけたいという思いがあった。JA内浦町はかつて、トマトやキュウリなどのハウス栽培で県内の先進地的な存在として知られ、昭和42年には優れた農業団体に贈られる「朝日農業賞」も受賞した。しかし、栽培面積が狭いために生産量は伸び悩んでいる。

深層水には植物の成長に欠かせない 硝酸塩やリン酸塩など、豊富な栄養分が 含まれている上、若干の塩分を含んだ水 を与えることで、トマト自身が塩分過多 で枯れないよう栄養分を多く取り込も うとするため、糖度が増す。

代合のマ稼でば農たと来な相理はラ以こないにら地警し、出いにら地警し、はいにらがしいがあり、おいにがれがきいがない。

層水トマトをブランドとして定着させることによって、1kg600円で売れる」と期待を込める。試験は今後2年間続けられ、その後、希望する農家や新規就農者と共に、深層水トマトの産地化を図る予定だ。

輪島ブランドを 首都圏に売り込む

輪鳥食材-ブランド強化会議

事務局/輪島市二ツ屋町2字29番地(輪島市役所内) TEL 0768-23-1141

輪島市内で水産物や農産物の加工、販売を手がける10人のメンバーは昨年10月、「輪島食材―ブランド強化会議」を立ち上げ、定期的に会合を重ねながら、能登空港も利用した首都圏への販路拡大、他産地との差別化を図った新商品開発などに取り組んでいる。

きっかけは、昨年春にISICOの倉本卓次マーケティングアドバイザーと川畠平一コーディネーターを交えて開催した勉強会で、両者からブランド力や技術革新の方向性などについて、積極的なアドバイスを受けたことだった。

同会議会長で海産物製造販売会社 「海士屋文四郎」の大積善也社長は、この 勉強会に参加して「いいものを作ってい れば、それだけで売れるという時代では ない。市場や消費者が何を求めているの かをしっかりと把握し、その上で売れる ものを作る"マーケットイン"の発想や、 自分たちがどういうイメージで見られ ているかを知って販売戦略を立てるこ とが必要」と感じ、有志とともに会議を 立ち上げることにした。

会議の立ち上げを前に、メンバーの熱



試験栽培では、 深層水を20~ 100倍に薄めてトマトに与え、最適 の濃度を探った。



好感触を得た深層水トマトの試食会。 写真左は田形功内浦町長(当時)、右は花畑組合長。



味はもちろん、パッケージやネーミングなどにも工夫を凝らす。

意を受けたISICOでは昨年8月、首都圏への販路開拓戦略の第1弾として東京・築地市場内の食堂「市場の厨房」に協力を仰ぎ、輪島の食材を使ったメニューを1カ月間、提供してもらった。かつて豊後水道の「関サバ」「関アジ」を全国ブランドに高めたことで知られ、多くの仲買人や食通が顔をそろえる同店でも、輪島産のいしるやツルモ(海藻)は評判となった。

今年6月からは第2弾として、東京・港区の料理店「懐石牡丹」で輪島の食材を使った料理を輪島塗の御膳で味わうランチを提供する予定となっており、こちらも期待される。

こうしたPR戦略の一方で、今年は年

末の歳暮商戦にターゲットを絞り、首都 圏のデパートに売り込むための商品づくりを研究している。引き続き、倉本アドバイザーと川畠コーディネーターのアドバイスを受けながら、デパートのバイヤーなどの意見も集約し、今夏をめどに商品化を目指す。



お互いの商品を持ちより、これからの販売戦略を練る 大積会長(写真右から3人目)ほかメンバーの皆さん。

農業の6次産業化にチャレンジ

6次産業とは「1次産業×2次産業×3次産業」を一口に表現した言葉である。農産物をそのまま出荷するだけでなく、独自に商品として加工し、販売チャンネルを確立することで、産地の活性化や農業経営の安定化を図ろうとする試みだ。生産、加工、販売を融合した農業の理想形を追い求める2社を紹介する。

五郎島金時を 焼き芋やペーストに

(有)かわに

金沢市大野町6丁目31 TEL 076-267-2976 http://kawani.jp/

金沢市粟崎町でサツマイモを栽培する「かわに」では、生産にとどまらず、真空パックの焼き芋や焼き芋ペーストの加工、販売にまで踏み込んで、新しい農業の在り方を探っている。

同社の河二敏雄社長が加工、販売をス

タートさせたのは平成8年にさかのぼる。「豊作貧乏という言葉があるぐらいで、農家は自分たちで作物の値段を決めることができない。それなら自分で商品として加工すれば値段を決められる」と考え、商品化に乗り出した。

粟崎町の砂丘地のサツマイモは加賀野菜「五郎島金時」の名前で知られ、大きく形の整った秀品は1kg500円という日本一高い価格で取引される。一方、全収穫量のうち5%は規格外品として扱わ





写真左・大手広告代理店での豊富な経験を生かして、生産者にマーケティングの考え方をアドバイスする倉本アドバイザー。 写真右・元県農業総合センター所長で、県内の生産者、食品企業、研究機関との太いパイプを生かして農工連携を促進する川島コーディネーター。

人と地球に優しい 農業を後押し

資源エコロジーリサイクル 事業協同組合

加賀市大聖寺番場町7番地 TEL 0761-74-5323

資源エコロジーリサイクル事業協同組合は、食品残渣を使って高品質の堆肥をつくり、農産物の生産者を側面からサポートしている。

同組合は加賀市内の一般廃棄物の運搬処理業者など4社で組織し、平成14年から堆肥づくりに取り組んできた。飲食店やコンビニエンスストア、小・中学校、食品製造業者から排出される生ごみや残飯に、もみ殻や米糠などを混ぜて、60~70度で発酵させ、30~45日かけて堆肥に仕上げる。

北陸先端科学技術大学院大学の 民谷栄一教授らと共同研究を進め、 さまざまな配合を試した結果、魚介類 の残渣を40%、植物系の残渣を60% の割合にすれば、肥料として最も効果 があることがわかった。スイカなどを 使って実験したところ、糖度が1.5度~ 2度アップしたという。効果は口コミで 広がり、14年の120tから16年は180t へと順調に生産を伸ばしている。

北村栄事務局長は、「一口に堆肥といっても品質にはバラつきがある。単にごみをリサイクルするのではなく、付加価値を追求して他の商品と差別化したい」と語り、さらに改良し続ける考えだ。







写直右●規格外の五郎鳥 金時を活用した焼き芋の 真空パックとペーストを 利用して作ったプリン。



れ、1kg100円以下になってしまう。味は まったく遜色がないことから、河二社長 はIAから規格外品を仕入れ、焼き芋とし て売ることにした。

さらに、平成15年からは和菓子の製造 販売業者の話をヒントに、焼き芋をペー スト状にして販売することにした。

かわにのペーストは、輸入物や他の国 産品と比べて10度以上糖度が高い。なぜ なら、既存のサツマイモのペーストは蒸 してからすりつぶすのに対し、焼き芋づ くりの技術を使って遠赤外線でじっく り焼いてからすりつぶすからである。焼 くことによって余分な水分が飛ぶため、 型くずれしにくく、菓子の製造業者から も重宝がられている。ペーストはスイー トポテトやアイスクリーム、プリンなど に利用され、生産量は平成15年の20tか ら16年には50tと急激に伸び、今年は70t を見込んでいる。

河二社長は自らの仕事を「五郎島金時 の食文化創造業」と位置づけ、「3年後に は畑の一角にアツアツほくほくの焼き 芋を食べられる直販店と現在より も加工能力の高い加工場を建て、 より多くのニーズに応えたい | と エネルギッシュなビジョンを描い ている。



能登大納言を使った おはぎを商品化

(有)六星生産組合

白山市橋爪町104番地 TEL 076-276-5266 http://www.rokusei.net/

白山市の六星生産組合は農産物の加 工、販売に取り組んで23年目を迎える。 平成8年には同市内の国道近くに直売所 を完成させ、店先には米や野菜、もち、か きもちなど常時100アイテムが並んでい る。通常の2倍の黒豆を練り込んだ豆板 もちなど、客の要望を取り入れた商品も 多く、北村歩社長は、「店頭でダイレクト に聞く消費者の声は、商品づくりの参考 になる | と話す。

同組合はもともと、昭和52年にレタス の栽培農家5戸が経営規模の拡大を目的 に旗揚げした。冬場の仕事の確保、米の 消費拡大を目的とした加工、販売に取り 組みはじめたのは昭和57年のことで、第 1号商品はかきもちだった。

新商品づくりには絶えず取り組んで おり、今年1月からは奥能登特産の小豆

「能登大納言」を使ったおはぎを店頭に 並べた。能登大納言は普通の小豆の2倍 ほどもある粒の大きさとまろやかな甘 味が特徴である。1個180円と普通のおは ぎの倍近い値段ながら、おはぎ目当てで 店に足を運ぶリピーターも増えた。

当初は、材料の能登大納言を農家から 仕入れる予定だったが、生産量が少ない ため必要な量を確保できなかった。それ ではと、珠洲市内に2haの畑を借りて自 ら栽培。1.3tを収穫した。北村社長は「農 家が農業だけでやっていくのは難しく なってきた」と語り、今年は作付け面積 を倍増し、きんつばなど新たな商品づく りに取り組む予定だ。

*

以上、今回のISICO特集では意欲的な 取り組みを見せる6件の事例を紹介した。 農業分野における産地間競争はこれか らますます厳しさを増し、売れる商品を 作らないと淘汰される時代が来たとい っても過言ではない。

消費者にとってみれば、おいしいのは

もはや当たり前。そのほかの付加 価値やストーリー性がなければ購 買意欲はかきたてられない。消費 者の心をつかむ生産者の工夫と努 力はこれからもまだまだ続く。



写真左 農業の6次産業化 に取り組む六星生産組合の 北村社長 写真右●能登大納言を使 ったおはぎが好調な売れ行

農工連携サポート拠点

付加価値の高い商品づくりといっても、独自に取り組むにはハードルが高いもの。 生産者や食品製造業者のために、研究開発や技術相談に応じてくれる3つの拠点を紹介する。

植物・微生物の酵素や遺伝子利用に力



石川県立大学 生物資源工学研究所 石川郡野々市町末松1-308 TEL 076-248-8412 http://www.pref.ishikawa.jp/ishikawa-pu/

石川県農業短期大学が改編され、 今年4月から4年制の石川県立大学 として生まれ変わる。バイオ関連の 最先端解析機器を備えた生物資源 工学研究所は、県内の各大学と連携 しながら研究・教育の充実を図る 機関であり、植物・微生物の酵素や 遺伝子を利用した付加価値の高い 医薬品、食品づくりにも貢献する。

同研究所の大山莞爾所長は「4年制になることから研究に力を入れ、より実践的に取り組みたい」と話し、今

後は、今までと違う農業や食品づくりにチャレンジする人材を県内外から幅広く結集したい考えだ。

さらに、来秋には、バイオ関係の大学連携型インキュベーション施設(独立行政法人中小企業基盤整備機構)が隣接地にオープンする予定だ。この施設では、県立大のほか、金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学、金沢工業大学が連携し、新しい生産技術や加工技術を使ったアグリビジネスを後押しする計画が進行中である。

各種試験、試作設備を開放

県産の農産物、水産物などを使った新しい食品素材の開発やオリジナル商品の開発を目指した試験、研究に取り組んでいる。

近年では、農業総合研究センターと共同で加賀野菜15品目の機能性成分について研究し、金時草、ヘタ紫なす、加賀れんこんなどに強い抗酸化力があることや二塚からしなに優れた血圧降下作用があることなどを

確認した。また、玄米を用いた清酒 の製造方法を確立した。

食品加工技術研究室では、真空凍結乾燥機や超高圧処理装置などの試験設備を開放しており、機能性成分の抽出や食品の試作などに利用することができる。このほか、食品用加工機械やパッケージデザインの開発、異物混入の原因究明などにも力強い味方となってくれる。



石川県工業試験場 金沢市鞍月2-1 TEL 076-267-8086 http://www.irii.go.jp/

機能性成分の活用について研究中



石川県農業総合研究センター 金沢市才田町戌295-1 TEL 076-257-6976 http://www.pref.ishikawa.jp/noken/

農産物の生産や加工に関するさまざまな技術開発を行っている。農産物の中に含まれる機能性成分に関する研究も活発で、例えば平成15年には、中島町(現七尾市)の特産である中島菜に他の野菜と比べて抜群に高い血圧降下作用があることを発見。飲料メーカー大手の伊藤園が中島菜を使った新しい商品開発に乗り出した。

目下、同センターが取り組んでいる のが、イソフラボンやビタミンE、DHA など、脂溶性の機能性成分を活用した食品の開発である。これらの成分は、それぞれ動脈硬化やガン、認知症(痴ほう症)の予防に効果があるものの、水に溶けにくい性質のため、利用範囲が限られていた。そこで、より多くの食品に利用できるよう、水溶性の粉末にする技術を確立し、今年はこの粉末を使った機能性食品の試作などに取り組む。

トップの選択 THE TOP'S SELECTION

業界を問わず淘汰の波が本格化するこれからの時代、 経営者には逆境に負けない力強さが必要だ。 バイタリティーあふれる企業トップの素顔に迫り、 経営哲学や新たな一手を聞いた。

SELECTION.1

デジタル情報家電を新たな柱に

細野昭雄

代表取締役社長

(株)アイ・オー・データ機器

金沢市桜田町三丁目10番地 TEL 076-260-3377 http://www.iodata.jp/

ものづくりが難しい時代

石川県のベンチャーの草分け的存在 と言えるアイ・オー・データ機器。脱 サラした細野昭雄社長が昭和51年に金 沢市内の自宅ガレージを拠点に創業し た。

ベンチャーが社会的にも今ほど認知されていない時期だけに、事業を軌道に乗せるまでには苦労した。一番頭を悩ませたのは資金の調達である。当初は織物用電子柄処理システムを手掛けたが、開発に不可欠なミニコンが買えず、仕事を発注してくれたお客さんに前払いを頼み込み、窮状をしのいだ。

「僕らの時代と比べて、資金調達の面から見れば、現在のベンチャーは恵まれすぎているほど。ただし、大手メーカーでも苦戦している時代。ベンチャーにはいまだ大きな可能性があると思うが、ものづくりで大成するのは難しくなった」と環境の変化について分析する。

一日の半分以上を現場で

昭和59年にパソコン用増設 メモリボードを開発すると、会 社は飛躍的に成長を遂げた。大 手のやらないすき間を狙って 商品化を続けた。

社業が順調に発展する一方で、社員 数が50人を超えた昭和62年頃からは 「社員一人ひとりが何をやっているか 把握できなくなってきた」と社内統治 に頭を悩ませた。自分が目配りできる 規模の企業にとどめておくことも考え たが、パソコン市場の爆発的な成長を 目の当たりにして、苦手だった経営に 軸足を移していった。



平成3年に株式を店頭公開。以来、開発最前線から退いたとはいっても、今でも技術者としての血は騒ぐ。本社にいるときは、一日の半分以上の時間を

企画や開発の現場を見て歩くほどで、 技術的な難易度や採算性などはさてお き、社員にはユーザーの立場から率直 に改善点をぶつける。

その根底にあるのは、自己満足に終わらないものづくりの追求だ。「私たち

のようなものづくり企業という のは、自社製品にすごくほれ込 んでいるものです。しかしその 思い込みが時に落とし穴にな る」と語り、実際に使う人の使 用価値に結びつく商品を開発で きるよう、指揮をとる。

難しいからこそ チャレンジを

細野社長が現在「20年前、パソコンの周辺機器を手がけたとき以上に可能性を感じている」と話すのが、デジタル情報家電市場への参入である。これまで、パソコンでテレビ番組の視聴や録画、編集を可能にする「GV-MVP」などを投入しており、「家電とITの融合が本格化すれば、パソコン周辺機器と並ぶ事業の柱になる」と期待をかけている。

とはいえ、「家電の技術的ハードルはパソコンの5倍は高い」と見ている。しかし、簡単な技術の上に成り立つ商品ならいずれ価格競争になるのは、メモリボ

ードの価格暴落などの経験から目に見 えている。技術者には「難しいからい いんや」と発破をかける毎日だ。

理論家であり、実践家

物流サービスを手がけるアクティー の喜多甚一社長からは、優れた理論家 であり、優れた実践家でもあるという 印象を受ける。

ビジネス書をはじめ、月に4冊 以上の本を読むというだけあっ て、経済学者の説いた理論を自 社や業界に当てはめながら、よ どみなく説明してみせる。

しかし、それらは決して机上の空論ではない。他社との差別化を図ろうと、物流業界の常識を打ち破るビジネスアイデアを次々と打ち出し、成長を遂げてきたのが何よりの証だ。

例えば、創業間もない頃には、 荷主との契約を業界では当たり 前だった一日単位ではなく、時 間単位にすることで、荷主側の コストダウンを実現すると同時 にトラックの稼働率をアップさ せた。

企業は戦略の構築を急げ

喜多社長は「企業にとって今、 大切なのは"戦略"だ」と断言す る。

なぜなら「日本の企業は戦略 を実行に移す戦闘能力は海外企 業に引けを取らないが、戦略を

見誤れば、それらは役に立たない」と考えるからだ。その背景には、日本の企業には幾多の試練を乗り越えてきた歴史があるが、これは、必ずしも意図してやってきたわけではない、つまり描いた戦略に沿った結果ではないとい

う分析がある。

それでは、喜多社長が描くアクティーの戦略とは何か。それが、"物を運ばない物流"の構築であり、それを形にしたのが今年2月から稼働しているSCMセンターである。



同センターは、これまでメーカー、 問屋、小売店がそれぞれ持っていた物 流センターを一カ所に集約した施設 だ。これまでメーカーから問屋へ、問 屋から小売店へ輸送していた手間とコ ストを圧縮し、一つの建物の中だけで 取引を完結させる。

顧客からの手応えは上々で、今年9月には延べ床面積約12000m²の倉庫がオーバーフローする予定だ。来年には隣接地での増築、さらには富山県、福井県にも同様のセンターの建設を計画してい

る。「既存の形態から少しでも 物流コストを下げるためには、 構造的に変えてしまわなけれ ばならない」と考えた末、喜多 社長が打った一手である。

期待して待つことが 人材育成のかなめ

企業の経営資源として最も 大切なものとしては人材を位 置づける。ところが、4~5年前 までは、人を育てる難しさを 痛感。「ストレスの90%は人を 使うことに関するもの。いっ そ、自分ひとりでやれる仕事 の方がいいと考えたことさえ あった」という。

考え方が変わったのは、趣味で花を育て始めてからだ。

「蒔いた種がしばらくたっても芽を出さないと、種が悪いと思っていた。でも、いつ発芽するかは種によってそれぞれ違う。種が悪いわけでも、自分の管理が間違ってるわけでもない。信じて待てばいずれ

根を張り、芽を出す。大切なのは期待をかけてあげることです」

今では、期待をかけた人材が花を咲かせ、実を付けることが一番の楽しみだ。

SELECTION.2

「物を運ばない」新戦略に活路

(株)アクティー

金沢市専光寺町レ3番地18 TEL 076-268-1110 http://beproject.com



代表取締役社長



頭脳立県石川のシンボルとも言える 「いしかわサイエンスパーク (ISP)」。 パーク内に進出した企業や 研究機関の取り組みをご紹介します。

研究しやすい環境で 新規事業に挑戦できる フロンティアラボが人気

昨年6月、ISP内にオープンした賃貸施設「いしかわフロンティアラボ」が人気を集めている。県が賃貸料の一部を負担してくれるほか、産学官連携の研究に取り組みやすい環境とあって、平成17年3月現在、10社が入居している。その中の2社に入居の決め手やその後の取り組みを聞いた。

DETAILS MAP(平成17年3月現在)

■50坪タイプの建物に対応する用地 ■その他施設 その他分譲中 **淺**契約済み ■100坪タイプの建物に対応する用地 ■道路 池 *150坪タイプの建物は複数区画の組み合わせで立地できます。





CHECK POINT!

① 静かで集中できる環境

緑地率50%以上を誇る豊かな自然があり、静かな環境の中で研究ができる。また、最大100Mbpsの高速回線を完備し、無料で利用できる。



file1 | フジタ技研(株)

本社·工場:能美市大長野町ト65 TEL 0761-58-5358 SP:能美市旭台2丁目5番地3 TEL 0761-51-7285 http://www.fuilta-gkn.co.jp



作業の無駄を見つけて改善 納期の短縮を目指す

研究できる環境を求めて

昨年12月、フロンティアラボに入居した フジタ技研では、自社製品の納期短縮に ついて研究を進めている。

同社は金型部品の製造を手がけており、 ミクロン(1000分の1ミリメートル)単位で 金属に膜をつくる独自のコーティング技 術で、日本全国から発注されるほどの信 頼を得ている。

しかし、高いクオリティーで客先から 支持される一方で、「納期をもっと短縮で きないか」との要望も寄せられていた。そ れを受け、安藤英治社長は、「品質を落と さず、なおかつ納期を半分に短縮したい」 と考え、技術者の多能工化を進めること にした。 同社では今まで、1人が数十台のうち1台の機械を担当し、専門的なスキルを高めていく方針をとっていた。しかし、トラブル発生時に担当者が休んでいると対応し切れない上、作業はもちろん工程管理まで担当者任せになっていたため、客先の短納期化の要求に応えるために仕組みの改善が求められていた。

そこで、安藤社長は「1人の社員が複数の機械を使えるようになれば、お互いの仕事をカバーし合えるし、1人でやっていては気づかなかった作業の無駄が分かる。それらを改善していけば、作業ごとにかかる時間を短くでき、全体として工期が短縮されるようになる」と考えた。研究にあたっては、静かで集中できる環境を求めてフロンティアラボに進出することにした。

社員全員の多能工化を図る

研究施設は「SP」と名づけ、8台の機械を 導入した。「柔軟な思考を持った人なら、 今まで見落としていた作業の無駄が分か り、改善点を見つけてくれる」との思いか ら、中途採用した未経験者4人を配属した。 4人には事前に本社工場でいろいろな機械 を担当させ、実務経験を積ませた。その後、 SPで機械の習得に励み、1人が最低でも2 台、担当できるようになった。

同時に本社工場でも多能工化を推進した。安藤社長は「社員全員のスキルアップが望めるのはもちろん、いろいろな機械にふれていけば、社員の得意な加工なども分かってくる」と話し、「まず社員全員の能力を高めて、工期短縮に対応できる環境を整える。最終的には今までの半分の時間で製品を製造していきたい」と今後の展望を語っている。

file2 宮本デザインワークショップ

能美市旭台2丁目5番地1 TEL 0761-52-0911 http://mdws.jp

インターネットを活用して 県外企業のトータルデザイン受注を図る

ネットの普及で 県外企業との仕事も円滑に

製品デザインやホームページ制作など を手がける宮本デザインワークショップ は、昨年12月からフロンティアラボに入 居している。

宮本雅文代表は、大学卒業後、東京の デザイン事務所で製品デザインなどに携 わり、平成元年から故郷の石川県に戻っ て事務所を開設した。徐々に業務が拡大 し、スタッフを増員すると、事務所が手 狭になったため、平成14年7月、それまで 事務所を構えていた鶴来町(現白山市) からISP内のレンタルルーム式起業支援 施設・クリエイトラボに転居した。

宮本代表は、「辰口町 (現能美市) は遠いと思われがちだが、アクセスは金沢の郊外と大差ない。インターネットが普及したので、辰口にいながら東京など県外の企業とのやりとりもスムーズで

仕事に支障はない」と地理的なデ メリットがないことを強調する。

また、クリエイトラボには、研究 開発に取り組むベンチャー企業が 多数あり、新たなクライアントが 開拓できると推測した。それが的 中し、ラボに入居していた企業4社 のホームページやリーフレットを 制作。さらに、1社からは会社のシンボルマークや製品まですべてを手がけるトータルデザインを受注した。

より魅力的な フロンティアラボに転居

昨年12月からは一戸建のフロンティアラボに移った。クリエイトラボの家賃に少し上乗せするだけで3倍の面積の場所に移ることができ、駐車場も自社専用で使うことができた。

これから宮本代表が手がけたいのは、県外の中小企業のトータルデザイン。「一括してデザインすれば、印刷物からWebまで媒体ごとのイメージとクオリティーを統一できる上、応用展開していけば全体の制作費も安く済む」(宮本代表)と語り、新たなクライアントのトータルデザインを積極的に受注していく構えだ。

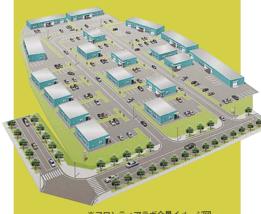


現オフィスの内観。撮影用スタジオや休憩室を完備している。

CHECK POINT!

② 家賃の30%は県が負担

進出する企業の初期投資が軽くなるよう、土地・建物の賃貸料の30%を、10年間を限度に県が負担。最長で20年借りることができ、研究所や事務所として利用できる。



※フロンティアラボ全景イメージ図

③ 3サイズの面積、2種類の仕様から 選択可能

施設の広さは50坪、100坪、150坪の中から用途に合わせて選択可能。建物の仕様は情報棟及び工場棟(研究室仕様)、工場棟(試作開発仕様)の3パターンから選ぶことができる。また、敷地内に駐車場を完備している。



●問い合わせ先

ISICOサイエンスパークオフィス

能美市旭台2丁目1番地 石川ハイテク交流センター内 TEL 0761-51-0122

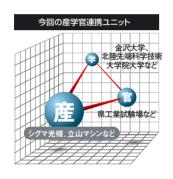


県内では、産学官の連携によって ニュービジネス創造を目指す動きが本格化しています。 ここでは、その実例に迫ります。

ナノテクノロジーの先進地に向け10億分の1メートルの世界に挑む

経済産業省が産学官の連携から世界に通用する新事業の創出を図る 「産業クラスター計画」が、北陸でも活発化している。

「北陸マイクロナノプロセス研究会」も、この計画に基づく産学官連携プロジェクトの一つ。 今回のトライアングルでは、同研究会の活動を探る。



北陸マイクロナノプロセス研究会

富山県上新川郡大山町下番30番地 (立山科学グループ内) TEL 076-483-4062 FAX076-483-4150 http://www.tateyama.or.jp/~hmnpa

4分野に分かれ、 新事業の展開をにらむ

北陸マイクロナノプロセス研究会では、バイオメディカルやITなど、さまざまな分野で注目を集めるマイクロ(100万分の1メートル)からナノ(10億分の1メートル)単位への技術の研究開発に取り組んでいる。

現在、金原桑東京大学名誉教授を 会長に化学や機械工業分野を中心と した企業17社、金沢大学、北陸先端 科学技術大学院大学、富山大学、石 川県工業試験場などが参加し、「IT・ エレクトロニクス」「新素材」「計 測・加工・機械」「医療・福祉」の4 分野のワーキンググループに分かれ て新事業の展開を探っている。将来 的に北陸をナノテクノロジーの先進 地域に押し上げるのが目的だ。

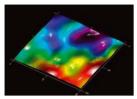
ナノレベルの凹凸を測る 3次元形状検査装置を開発

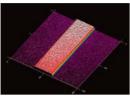
平成15年1月にスタートを切った研究会は昨年9月、その第一歩となる3次元形状検査装置の開発に成功した。ナノレベルの微細な凹凸を測定する同装置は、研究会メンバー・安達正明金沢大学教授が考案した「2波長光による高速位相シフト法」を用いることで測定速度を短縮。また、精密な測定に不向きだった工場など、振動のある場所での使用も可能にした。これまで主流だったアメリカ製の検査装置に比べ、コストも大幅に削減。従来品の1/3から1/6となる1000万円以下の価格を予定している。

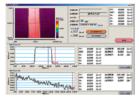
昨年秋からは、商品化に向けてマーケティングを進めており、マイクロレンズや半導体など、ナノ単位の精度が求められる製品の検査システ

●北陸マイクロナノプロセス研究会が挑む商品化









不均一な金属板表面の測定例。色に よって、違いをひと目で分かるよう にしてあるほか、図表によって細か なデータ分析も簡単にできるように なっている。

ムとして需要が見込まれている。ステージを前後、左右、上下に動かし、測定位置を調整する装置を開発したシグマ光機(株)(白山市)は、「細胞を分析したり、バイオチップを開発したりなど、飛躍的な成長が期待されるバイオメディカル分野の研究開発にも役立つ」(水村峯夫執行役員・研究会幹事)と、今後の販路開拓に自信を深めている。

県工業試験場が性能を評価 海外マーケットも有望に

また、3次元形状検査装置の開発では、制御装置から発生する電磁波ノイズの評価を県工業試験場が受け持った。中野幸一県工試電子情報部長は、「さまざまな測定方法で、何度もノイズをチェックし、アメリカやヨーロッパなどの規格もクリアしている」と話し、同装置のマーケットとして海外も有力視できるとしている。

一方、計測システム本体は立山科 学グループ/立山マシン(株)(富山県 大山町)、が担当するなど、今回の開発では県境を越えた連携も積極的に行われ、それが早期の成果につながった要因にもなっている。

また、このほかのワーキンググル ープでも、定期的にグループ内のミ ーティングを開催し、研究会は情報 交換やネットワーク形成の場にもな っており、具体的テーマを掲げた数 グループが県境を越えた研究開発活 動を推進している。しかし、ナノレ ベルの開発には高価な計測器具や加 工器具の購入といった壁もあり、研 究会では、この課題に対応するため、 県工業試験場などが持つシステムの 積極的な活用や、全国へと枠を広げ た技術連携を進めていく予定だ。そ して、今後は、各グループの研究開発 を製品化していく方針で、北陸の企 業や地域の活性化に向けてビジネス へとつなげいくことを目指している。



写真右上 「産業の活性化のためにも、県内にナノテクノロジーに取り組む企業がもっと増えてほしい。シグマ光機としても、このような企業の研究開発を積極的に支援していく方針だ」(水村氏)

写真右下◎県工試の中野電子情報部長(右)と、ノイズ 測定を担当した吉村専門研究員。「電磁波をキャッチするアンテナ(写真中央)など、最新の設備が整っており、積極的に活用してほしい」(吉村氏)。





CHALLENGE

21世紀のチャレンジ

ベンチャースピリットに触れる

新分野

北陸で珍しい音楽制作プロダクション

(有)クリシェ



所在地

金沢市芳斉2-15-6 TEL 076-234-2131

■ 代表者

■設 立

平成12年8月

資本金 ■ 社員数 300万円 4名

事業内容

作曲・アレンジなど音楽制作(5.1chサラウンドサウ ンド対応可能)、ゲーム音楽制作、TV/CM音楽制作、 MIDIデータ制作・音楽配信・販売、デジタルコンテン ツ企画制作、音楽系モバイルコンテンツの制作、音楽 系ネットワークコンテンツの制作、音楽系コンピュー タソフトウェア企画開発、イベントプランニングプロ

http://www.clishe.tv/

プレイステーション2やパソコン用 のゲームソフトの音楽などを手がける クリシェは、北陸では数少ない音楽制 作を専門にした企業である。

東京でフリーランスとしてゲーム音 楽などを作曲していた四柳嘉之社長 (写真)は平成12年、故郷の石川で起業。 東京の取引先から仕事を受注し、音楽 制作を手がけた。現在、自社スタジオの レコーディング機材を活用し、高品質 の音楽を提供し続けている。四柳社長 は、「クライアントの要望にしっかりと 応えた上で、さらに望まれている以上 のクオリティーでの納品を信条とした 結果、ほとんどのクライアントにリピ ーターとなっていただいています と

自社の強みを語る。また、納品までのス ピード、声優などを手配できる企画力 も高く評価され、評判を聞きつけたゲ ームメーカーや広告代理店から、プレ イステーション2のソフトの音楽全般 やテレビCM、企業PRの映像ソフトの 音楽作曲を次々と受注した。

品質の高さは石川でも評判となり、 平成13年、輪島塗をPRするCD-ROM を制作。伝統工芸の輪島塗の世界とコ ーラスなどが入った神秘的な音楽との 融合を見事に表現し、好評を得た。

海外進出も視野に入れる四柳社長 は、「ハリウッドなどの映画音楽を手が けることが一番大きな目標」と今後の 展望を語っている。

SOHO

フィットネスサイトを軸に展開

(有)ビートオール



■ 所在地

金沢市鞍目2丁目1番地 TEI 076-268-1200

■代表者

森 英一朗

■ 設 立

平成16年5月

■ 従業員数 1名

■ 事業内容

ホームページ「フィットネスジャパン」運営・管理、 中古音楽ビデオのネット販売、エンターテインメント 関連の企画・提案、Webコンサルティング、セミナ 一講師講演活動など

●フィットネスジャパンホームページ http://www.fitness-japan.com/

いしかわSOHOプラザクリエーショ ンオフィスに入居するビートオールで は、フィットネス関連の情報を詰め込 んだホームページ[フィットネスジャ パン を運営している。

コンテンツは、フィットネス器具や スポーツドリンクの解説など10数個 にも及び、フィットネスに関連した企 業サイトへのリンクも多い。現在は、イ ンターネットユーザーがホームページ を経由して商品購入することで販売元 から報酬が入るアフィリエイトなどの 広告収入が事業の軸になっており、多 くの人にフィットネスジャパンに訪れ てもらえるかどうかが生命線だ。

だからこそ、森英一朗社長(写真)は

「ジムへ通ったり、スポーツドリンクを 試したりと実際に体験したことを、ユ -モアたっぷりの文章で書くことを心 がけている」と話し、毎日、ホームページ の更新を欠かさない。さらに、ユーザー の声を反映するため、すべてのページ に感想を書き込むスペースを確保。親 近感のある情報満載のフィットネスジ ャパンにはリピーターも多く、1日4~ 5千件のアクセス数がある。

今後は、フィットネスジャパン制作で 培ったノウハウを生かし、フィットネス 関連本の出版やネット販売などのコン サルティング業務なども視野に入れて おり、ホームページから始まった活動 をさらに活性化させていく考えだ。

産業構造の高度化、急速な技術革新が進む中にあって、 企業にとってはビジネスチャンス獲得のために新たなチャレンジが求められています。 その中で、独自の取り組みで工夫を見せ伸びゆく4社を紹介します。

農業からの地域振興で第6次産業を目指す

(株)JAISTATION



■ 所在地

能美市旭台2T目13番地 サイエンスパーク内いしかわ

クリエイトラボ109号 TEL090-7149-0281

■ 代表者 ■設 立

西岡 久継 平成16年6月

■ 資本金 40万円

■ 社員数 2名

事業内容

農作物の生産・卸・販売、農業技術研究、農業MOT マイスター制度の確立、産直市場運営、農業経営コン サルティング、新事業創造、知識移転創造型経営指導

北陸先端科学技術大学院大学(JA IST)の学生2人が昨年6月に立ち上 げたJAISTATIONは、農業を核とした 地域振興を目指し、さまざまなビジネ スモデルの構築に取り組んでいる。

まず手始めに行ったのが、寒菊(かん ぎく)の栽培。従来は7月ごろに植えて 12月に刈り取る寒菊を「米作農家の人 が閑散期に栽培できるようし西岡久継 社長、写真右)9月に苗を植えた。寒菊の 栽培農家からは「日照時間が短い北陸 で秋から育てるのは無理しと言われた が、こまめにビニールハウスの温度管 理を行った結果、12月、寒菊の出荷に成 功した。

もっとも、異龍雄取締役(写真左)は

「自社農業生産そのものが僕たちの目 的ではありません」と話す。2人が目指 すのは、農業による地域振興。そして、農 業を核としながら、商業などの他業種 の人たちとも連携する第6次産業への 進出である。今回、菊の栽培に挑んだの も、「米作が盛んな北陸地方で菊の栽培 などのモデルケースをつくれば、新た な収入源となる農産物栽培を農家に提 案できる」(西岡社長)と考えたからだ。 現在は、特殊技術を応用した加賀野菜 などの養液栽培の準備に着手してい る。今後は、農家や他企業と技術提携し、 自社のビジネスモデルによる生産委託 なども含めた経営コンサルティングも 手がける考えだ。

ネット販売

ネット販売で日本全国に販路を拡大

酒のこんちきたい



| 所在地

かほく市一ツ屋ナ163-1 TEL076-281-1890

■ 代表者 従業員数

越野 俊彦 4名

事業内容

洒類の販売

http://konchikitai.com/

酒類の販売を手がける酒のこんちき たいでは、店舗での販売に加え、インタ ーネットを活用した販売に乗り出し、 順調に売り上げを伸ばしている。

越野俊彦代表 (写真)は、創業100年 以上という酒屋の4代目。当初は宅配を 中心にしていたが、「お客様がお酒を手 にとって選べるよう」(越野代表)、平成 4年、現在地に店舗を構えた。多数のメ 一カーの商品を置くのではなく、酒蔵 を厳選した上で、その酒蔵の商品ライ ンアップをすべてそろえるこだわりぶ りで、既存の得意先に加え、金沢などか ら買いに来る新規の客を開拓した。

平成11年には、自社サイトを立ち上 げ、ネット販売を開始。それに先立ち、

ISICO主催の「バーチャルショップ道 場」に参加してホームページの構築な どを学んだ。ネットでは、選りすぐりの 石川の地酒をセットで販売。「お客様に 満足していただきたい (越野代表)との 思いから、全商品に解説文を入れるほ か、客の疑問や要望にメールなどで丁 寧に応え、対面販売に劣らない対応を 心がけた。現在、日本全国から注文が寄 せられ、一度訪れた客の多くがリピー ターとなり、昨年12月期には、ネットだ けで500万円を売り上げるまでに成長 した。

越野代表は「宅配と店舗販売をしっ かりと維持しながら、ネット販売を拡 大していきたい」と意欲を見せている。



ビジネスチャンスの拡大、逆境をバネにランクアップ・・・ さまざまな目的に向け、販路開拓に乗り出した企業の挑戦を紹介します。

エコ漆器に 全国から熱い

(株)ウチキ

加賀市柏野町イ61 TEL0761-77-1616 FAX0761-77-1618 http://www.uchiki-co.com

400年以上の歴史を誇り、全国に多くのファンを持つ山中漆器。"環境"という視点からこの伝統産業の活性化を図っているのが、漆器製造販売会社のウチキだ。

同社では、微生物の働きで分解される生 分解性プラスチックの液化技術を確立し た元京都大学名誉教授白石信夫氏と共同 で、新たな漆器成形材料となる木質バイオ マス樹脂を開発。この新素材を用いた山中 漆器の製造販売を、昨年6月から本格化さ せている。

木質バイオマス樹脂とは液化した生分解性プラスチックに木粉を加えたもので、細かく粉砕して土中に埋めておくと従来の合成樹脂製よりも早く腐食し、土に還る点が最大の特徴だ。木粉も、木製漆器製造過程で発生する切削片の再利用を検討している。さらに、現在、量産化されている合成樹脂製はダイオキシン発生の懸念から焼却処分できないが、木質バイオマス樹脂は低温で燃やしてもこれら有害物質が発生しないこともメリットだ。

木質バイ オマス製山中

漆器は「エコ漆器

として全国から高い注目を集めている。一昨年秋には試作品が農林水産省内の食堂で実験的に使用されたほか、昨年11月には、ISICOが東京で開催した「ISHI-BRAマーケットプレイス」にも出展。また、首都圏を中心に大手スーパーマーケットの店頭にも並んでいる。「開発当初は塗り物としての仕上がりに満足がいかず、試行錯誤の連続だった。納得した素材になるまでに8年ほどかかったが、十分に改良を重ねた結果、現在の商品の完成度は高く、風合いは天然木材に近い」と、打出浩喜社長は胸を張る。

今後は、合成樹脂製漆器より割高になっているコストの圧縮が重要な課題で、同業者と連携し、今まで「漆器」になじみの薄かった「若者層」への売り込みや、「子ども食器」、「給食食器」、「病院食器」などの新分野への進出を図り、木質バイオマス樹脂の量産体制を整えていく方針だ。



環境に優しい木質バイオマス樹脂製漆器は、石川リサイクル認定製品にもなっている。

Event News

第18回石川県中小企業技術交流展

受注拡大、新規取引先開拓へ 製品開発力を積極的にPR!



ISICOでは、5月19日(木)から21日(土)、石川県産業展示館2号館で、県内中小企業の技術や製品を展示する「石川県中小企業技術交流展」を開催します。技術交流展には、県内中小企業の優れた製品、部分組立品、部品および素形材などを一堂に展示します。また、今年も、特別コーナーとして、中国に工場進出している県内企業のコーナーを設けます。この機会にぜひご来場いただき、県内中小企業のご活用を検討いただきますよう、ご案内申し上げます。

●開催期間

5月19日(木)~21日(土) 10:00~17:00 会場/石川県産業展示館2号館 (金沢市袋畠町南193) 出品物/県内中小企業によって 生産された製品・部組品・部品 (単品加工品)・素材及びパネル

●お問い合わせ

(財)石川県産業創出支援機構 企業振興部 TEL076-267-1140



金沢・加賀・能登の各地区 新年度に向けた 取り組みがスタート

http://www.jobcafe-ishikawa.jp/

昨年7月に開所した若者の就職サポート拠点「石川県若者しごと情報館・ジョブカフェ石川」では、9月に能登サテライト(七尾市)、10月に加賀サテライト(小松市)を相次いで開設し、地域の実情に応じたきめ細かな就業支援を実施している。そこで、加賀・能登・金沢各地区の責任者に、1年目の総括と、新年度への意気込みを聞いた。

金沢センター

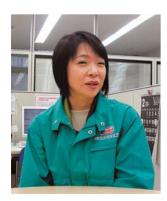
個別相談に 一層注力を図る

金沢センターでは、20代前半の大学生が増えており、ジョブカフェが若い人たちに広く浸透していることを実感しています。また、パソコンを使った適性診断が人気で、将来、どの道に進みたいかを迷っている若者が多いように思います。

ですから、金沢センターでは、ジョブサポーターが1対1で対応する個別相談を通して自己分析や自己理解を促していきたいと考えています。加えて、若手社会人をゲストに迎えて座談会形式で仕事への理解を深める「しごと研究会」など、楽しく学べるセミナーを開講していく予定です。

一方で、ミニ会社説明会を定期的に開くなど、ジョブカフェを若者と企業との 交流の場へと進化させていく構想もあり ます。

今後も、若者たちの声、企業のニーズ を取り入れた企画・イベントなどで、積 極的な就職サポートの展開を進めます。



植村 まゆみ

金沢センター

金沢市広坂2-1-1石川県広坂庁舎1号館1階 TEL076-235-4513 FAX076-235-4523

加賀サテライト

ものづくりを生かした セミナーが好評

加賀サテライトでは、1月末現在でのべ2700人が訪れ、相談件数は1000件を超えました。カウンセリングする中で感じるのは、今の若者たちは各企業の事業内容を深く知らないという点です。

ご存知のように、加賀地区の産業は、機械メーカーをはじめ製造に携わる企業が多いのが特徴だと言えます。ですから、加賀の企業の中身を知るとともに、建設的な考え方を身につけるため、「ものづくり発想法」というセミナーを開講しました。これは、アイデアを形にしていくものづくりの過程を採り入れたもので、実際に工場を見学し、ブレーンストーミングすることで「着想」を「発想」につなげていく力を磨くのがねらいです。

ものづくり発想法は、受講者に好評で、 今後もさまざまなテーマを決めて、定期 的に開いていきたいと考えています。

崎

睴



加賀サテライト

小松市三日市町18-1三日市きまっし☆プラザ2階 TEL0761-21-2223 FAX0761-21-2044

能登サテライト

能登全域の企業との 密接な関係構築を

今年度はジョブカフェの存在を一人でも多くの人に知ってもらうため、能登地区のすべての高校、商工会議所などを訪問しました。行動することを第一に心がけた結果、来所者数は順調に増えており、能登全域から1日平均24人が訪れています。中でも20代後半から30代前半の主婦の方が多いように思います。

また、能登サテライトにはハローワークの業種別求人票が常時そろっているほか、週2回はハローワークの巡回相談も行っています。仕事に関するさまざまな相談から紹介までをワンストップで行える点が、能登サテライトの強みです。

今後は企業との結び付きを一層強め、 地域ぐるみで優れた人材の掘り起こしを 図っていきたいと思います。同時に、高 校生を対象にしたセミナーを実施し、職 業意識の向上に努めていきます。



川秀平

能登サテライト

七尾市御祓町1 パトリア4階 TEL0767-53-7070 FAX0767-53-7022

ISICOでは、県内の中小・ベンチャー企業の活性化、 学官連携の推進のため、さまざまな取り組みを行っています。 その様子をダイジェストでどうぞ!

韓国で新たなビジネスパートナー探し

県内のIT関連企業が韓国の大邱とソウルにおいて現地企業と商談する「石川IT企業視察・商談会in韓国」が昨年12月6日(月)から10日(金)にかけて開催され、韓国で自社の技術や特徴を生かせる新たなビジネスパートナーを探した。

ISICO及びジェトロ金沢が主催 したこの商談会には、(株)石川コン ピュータ・センターや(株)道洋行 など5社が参加。大邱デジタル産業

石川IT企業視察・商談会in韓国

振興院で商談会を行ったほか、ソウルでは韓国文化コンテンツ振興院やKOTRA(大韓貿易投資振興公社)など関連機関を訪問した。県内企業が各地で自社の技術や特徴などをアピール。韓国企業12社からもプレゼンテーションがあった。

滞在中、26件もの商談があり、各 社が今後の韓国企業とのビジネス に手ごたえを感じていた。

産学官連携のコツを教授



第3回セミナーの様子。会場では熱心な質疑応答が行われた。

企業と大学などが連携した共同研究のあり方について解説するセミナー「企業から見た産学連携」(全3回)が県地場産業振興センターで開催され、86人が産学連携の利点や活用法などを学んだ。

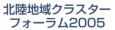
1月24日(月)の第2回セミナーでは、 昨年10月に開催された1回目に引き続き、タマティーエルオー(株)(東京都)の 代表取締役社長・井深 丹氏が講演。井深 氏は自ら手がけた多数の産学連携プロジェクトの事例を紹介しながら「産学連携 産学官連携セミナー 「企業から見た産学連携」

の主体はあくまでも企業。試作品の完成 を目標にプロジェクトを進めることがポ イント」と解説した。

2月22日(火)の第3回セミナーでは、 (株)ビーロード(能美市)の彦田庸三社長 と富士工業(株)(浜松市)の鈴木秀幸社長 が、産学連携の製品開発事例を発表した。

この中で両社長は補助金などの公的支援について「さまざまな支援メニューがあり、活用しない手はない」と強調した。

北陸地域における産業クラスター事業及び知的クラスター創成事業等の研究成果を発表





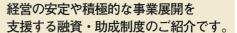
川崎和男氏の基調講演には大勢の人がつめかけた。

北陸地域における産業クラスター事業 及び知的クラスター創成事業等の成果を 発表する「北陸地域クラスターフォーラム 2005」(主催・北陸ものづくり創生協議 会)が2月17日(木)、県地場産業振興セン ターで開催され、約220人が地域の特性 を活用した新産業創出を模索した。

知的クラスター・産業クラスターとは、研究機関や関連企業が連携して新しい産業の創出を図ること。当日は早期の認知症(痴ほう症)診断や回復法の研究に取り組む石川ハイテク・センシング・クラスターがこれまでの成果について発表したほ

か、金沢工業大学や北陸先端科学技術大学院大学など44団体が研究成果をパネルで展示した。

また、福井県出身で工業デザイナーの川崎和男氏が「先端のデザイン」をテーマに講演した。自身がデザインを手がけた(株)ナナオ(白山市)のパソコンディスプレー「EIZO」や増永眼鏡(株)(福井市)の眼鏡フレーム「Kazuo Kawasaki」など、デザイン性と機能性を両立させた結果、世界的にヒットした商品を紹介。「これからはデザインが時代と社会をつくっていく」とデザインの価値と重要性を説いた。





●平成17年度、石川県産業創出支援機構では、以下の貸付・貸与事業を実施します。 設備資金貸付事業、設備貸与事業、産学・産業間連携等設備貸与事業

(財)石川県産業創出支援機構 企業振興部 TEL 076-267-1140

	設備資金貸付	設備貸与 (割賦・リース)	産学・産業間連携等設備貸与(割賦)
内容	創業・経営基盤の強化に必要な設備資金の1/2以内を長期・無利子で貸付(中古設備可)	創業・経営基盤の強化に必要な設備を ISICOが代わって購入し、長期・低利で貸 与(割賦またはリース) (中古設備可)	創業・経営基盤の強化に必要な設備をISICOが代わって購入し、長期・低利で貸与(割賦)(中古設備可) ※ただし、次のいずれかに該当する企業であること ● 産学・産業間連携事業の補助金を受けた企業 ● モノづくり再生支援プログラム対象企業 ● 経営革新支援法等承認企業 ● 地域貢献型企業
貸付限度額	50万円~4,000万円 (特例25万円~6,000万円)	100万円~6,000万円	100万円~6,000万円
利息	無利子	【割賦損料】 【リース料】 年2.75% 月1.408% (7年) 実質金利2.00~2.25% ~3.006% (3年)	【割賦損料】 年2.75% 実質金利2.00~2.25%
期間	7年以内 (うち据置期間半年または1年以内) ※保証人必要。貸付金額1,000万円超の場合、原 則として物的担保が必要 ※県の制度金融との併用可能	【割賦】 7年以内 (うち据置期間半年または1年以内) ※保証金10%(割賦制度)。原則として保証人のみ【県の利子補給】 ・ IT(情報技術)分 ・ 産学・産業間連携支援分 ・ の.75% ・ 般分 ・ 帰のほか、市町村によりさらに利子補給がありますので、当機構へ相談・お問い合せください。	【割賦】 7年以内 (うち据置期間半年または1年以内) ※保証金10%(割賦制度)。原則として保証人のみ 【県の利子補給】 ● IT(情報技術)分 0.75% ● 産学・産業間連携支援分 0.75% ー般分 0.50% ※県のほか、市町村によりさらに利子補給がありますので、当機構へ相談・お問い合せください。

※金利については変更する場合があります。

"つくば"の研究内容をじっくり紹介

筑波石川研究交流会 研究室レポートを発行

つくば学園都市で活躍する石川県ゆかりの研究者と県内企業の交流を図る「筑波石川研究交流会」。同交流会の機関誌「2004年度 筑波石川研究交流会 研究室レポート」を発行しました。17号目を迎えた今号では、研究者の

17号目を迎えた今号では、研究者の方々が取り組む研究28件を、「材料・機械・システム」「環境・エネルギー」「ライフサイエンス」「食品」の4分野

に分類。写真や図などを多く用いるな ど、分かりやすく最新技術を紹介して います。

ISICOでは、県内企業から要望のあった研究者との交流を図る「つくばへ行こう!」も企画しています。今回の機関誌にも技術力向上に役立つ情報が満載です。研究室レポートから新たな産業化の芽を探ってみませんか。



【お問い合わせ】 (財)石川県産業創出支援機構 プロジェクト推進部 TEL 076-267-6291

いしかわクリエイトラボ入居者募集

■募集区画

·50㎡×5区画

■応募資格

- (1)インキュベータ
- ●新分野への進出、技術開発など、 創造的企業活動を行う中小企業
- ●独自の事務所・研究室が持てない 小規模企業
- ●創業まもない中小企業、これから 起業を目指す意欲ある方 (2)レンタル・ラボ
- ●研究開発に取り組むすべての企業

■利用料金

●賃貸料

【インキュベータ】 1 mあたり2,000円/月 【レンタル・ラボ】

1㎡あたり3,000円/月

- ●共益費 1㎡あたり500円/月
- ●保証金 月額賃貸料の2カ月相当

■利用期間

原則3年以内

(必要な場合だけ2年延長可)

●高速インターネット (100Mbps)常時接続無料

いしかわサイエンスパーク内のインキュベート施設「いしかわク

リエイトラボ」では、現在、入居企業を以下の通り募集しています。

- ●24時間365日利用可能
- ●無料駐車場
- ●北陸先端科学技術大学院大学との共同研究の 場合は、大学の設備も一部利用可能

【お問い合わせ】 (財)石川県産業創出支援機構 サイエンスパークオフィス TEL 0761-51-0122

INFORMATION TABLE

インフォメーションテーブル

起業・新分野進出のほか、経営や技術の高度化などに役立つ 情報を紹介するページです。

SEMINAR セミナー

日程 4/5 (火)

テーマ ■ 新入社員研修講座(即戦力養成講座)

場所■金沢商工会議所

EVENT イベント

日 程 ■ 5/17 (火) ~20 (金) テーマ ■ ビジネスショウTOKYO 2005

場 所 ■ 東京ビッグサイト

日本経営協会 **ぐ**03-3403-8910 日 程 ■ 5/19 (木) ~5/21 (+)

テーマ ■ 第18回石川県中小企業技術交流展

場 所 ■ 県産業展示館2号館 県産業創出支援機構 *◆*076-267-1001

日 程 ■ 5/19 (木) ~5/21 (土)

テーマ ■ e-messe kanazawa 2005 場 所 ■ 県産業展示館 1 号館

県情報システム工業会 **ぐ**076-267-4741

日 程 ■ 5/19 (木) ~5/21 (土) テーマ ■ 第43回機械工業見本市金沢

■ 第43回機械工業見本巾 (MFX会沢 2005)

場 所 ■ 県産業展示館3 · 4号館 県鉄工機電協会 **ぐ**076-268-0121

> さらに詳しい情報・最新情報は、 **DG net**↓

http://www.isico.or.jp

●ライブラリ利用案内

今年4月1日(金)から個人情報保護法が施行され、企業には顧客や 社員の個人情報について一層の管理強化が求められことになりま した。ISICOライブラリでは、法のポイントや漏洩対策を解説した ビデオなどを用意しています。ぜひ、ご利用ください。

ビデオ

- ・個人情報保護早わかり(全2巻)
- ・個人情報漏洩対策の実際(全2巻)
- ・個人情報 窓口対応のポイント(全2巻)
- ・個人情報漏洩発覚!組織対応の進め方(全1巻)

ISICOインフォメーションセンター TEL 076-267-1001

DGnetデジネット活用講座 4

DGnet(デジネット)は、最新情報の収集から、経営や技術に関する相談、産学官のネットワーク形成など、 あなたのビジネスをインターネット上で支援します。

希望のビジネス情報をメールでお届けします!

例えば、「イベント・セミナー情報のみ入手したい」ときは…



■DGnet News 配信希望	●配信を希望する ○配信をとりやり		
② 配信希望産業分野	□共通 □医療福祉 □環境関連 □情報通信 □新製造技術 □新素材 □		
③ 配信希望情報分類	☑イベントセミナー情報 □公的支援情報		
■配信希望産業分野、 情報分類の説明 ■産業分野とは ■債報分類とは	・共通を選択した場合、DGnetlに投稿された、全情報が新着情報として届きます。 ご自身の必要な情報が明確な場合は、その他の産業分類もしくは、イベントセミナー情報 選択された情報のみお届けします。		

"デジネットウォーカー"に ↓ まずはご登録下さい!

サービスとして、デジネットに登録されたイベント・セミナー情報や補助金・助成金等の支援情報が毎週月曜日にメール配信されます。また、欲しいビジネス情報のみ(例えば、イベント・セミナー情報のみ等)選択することが可能で、効率的に最新情報を入手できますので、ぜひビジネスにお役立て下さい!

ここからメール配信内容が変更できます

①をクリックすると、左記画面が表示されます。 ②の産業分野のチェックを外し、③の情報分類のイベントセミナー情報にチェックを入れると、今後、イベントセミナー情報のみお届けします。なお、②産業分野『情報通信』と③情報分類のイベントセミナー情報の両方にチェックを入れると、情報通信に関する全ての情報と、イベントセミナー情報の全ての情報が配信されます。



財団法人

石川県 産業創出支援 機構 Ishikawa W 構 Sunrise Industries Creation

●お問い合わせは

TEL:076 (267) 1001 FAX:076 (268) 4911

〒920-8203 石川県金沢市鞍月2丁目20番地 石川県地場産業振興センター新館

URL http://www.isico.or.jp E-mail info@isico.or.jp 編集後記

今回の農業特集では、県内各地で新しい試みに取り組んでいる生産者の皆さんにスポットを当てました。取材先ではこだわりや情熱をひしひしと感じ、石川の農業に秘められた可能性を感じることができました。また、「トップの選択」と題した新連載をスタートさせ、県内で注目を集める活力ある経営者を紹介していきます。